

すわみつえ通信

No.168 2021年4月5日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

【スポット型検査】埼玉県は3月20日から22日の3日間に、県内の繁華街や主要駅などで通行人に615個の検査キットを配布し、PCR検査への協力を依頼しました。

【団体型検査】県内の企業や工場などにも随時導入する予定。

【今後の予定】スポット型検査と合わせて、団体型検査を実施し、最終的に1日1000件程度の検査数を目指し、段階的に検査対象を拡充するとしています。

【政府】「1日1万件」のモニタリング検査を目標としていますが、緊急事態宣言を解除した11都府県と北海道が実施し、1日当たり748件(3月22日～28日)です。(しんぶん赤旗より)

【目的】繁華街等でPCR検査を行ってデータを分析して、感染拡大の予兆を早期に探知すること。



感 染 再 拡 大 の 予 兆 は ?
感 染 源 は ど こ か ?

埼玉県でモニタリング検査実施

コロナ感染防止対策

鴻巣市では、4月4日に387例目の陽性数が報じられました。和歌山・鳥取・島根などの各県では陽性者を発見した際に、濃厚接触者に限らず少しでも接触の可能性のある人に検査を行い再拡大を防いでいます。先進事例を学び対策を検討するよう求めています。

対策／鴻巣市では

川里地域を訪問活動

3月31日、「コロナ禍でお困りのことはないかと、屈巣舟塚の地域を歩いて訪問致しました。畠仕事されている方や春休みでお子さんと家で過ごされている方など多くの方からお話しを伺えました。



後援会の方と屈巣舟塚を訪問
すわみつえ市議 3月31日

学び舎に希望と元気贈る春
俳句コーナー
多恵子

ワクチン接種予定

- 4月下旬頃まで／高齢者への接種券(クーポン券)送付
- 4月下旬頃から／高齢者のワクチン接種開始
- 5月以降順次／一般の方への接種券(クーポン券)送付、一般の方へのワクチン接種開始
- 接種会場／市内医療機関(かかりつけ医)で接種できるよう協議中、集団接種は鴻巣保健センター・吹上保健センターを検討

★合併時の「新市建設計画15事業」の内「(仮称)共和箕田線整備事業(元荒川の橋建設を含む)」は進捗付けると3月議会で答弁しています。皆さんのが意見をお寄せ下さい。長引くコロナ禍でストレスや不安が続いています。引き続き市政で取り組んでいきます。

◆文化祭など楽しい」とができるない1年だった。(高校・大学生のママ)議員が話しを聞いてくれるのは嬉しい。不織布マスクは肌荒れするので布マスクで通わせている。早く収束してほしい。(園児ママ)

◆合併の時に協議されている橋が元荒川に架かると、花農家は市場への出荷に便利。(農家)

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

2市1町(鴻巣市・北本市・吉見町)で「ごみ処理広域化に関する勉強会」開始

3月23日付で宮崎吉見町長より「ごみ処理広域化に関する勉強会」への参加申入れがあり、鴻巣市は承認するとともに、鴻巣市・北本市・吉見町の2市1町で事務レベルの勉強会を開催していくと執行部より報告がありました。

吉見町は、「埼玉中部環境保全組合」で鴻巣市と広域でのごみ処理を実施しています。次回の勉強会は、4月16日を開催予定としています。



(写真)賛成討論する
吉良よし子議員=31日、
参院本会議

日本共産党の吉良よし子議員が賛成討論に立ち、「30人学級」「ゆきとどいた教育」を求める。全国署名が継続的に取り組まれ、32年間で累計4億6千万人分が集まつたと指摘。新型コロナウイルスの感染リスク低減に向けた分散登校を通じ、少人数の良さを実感した多くの声が動かしと強調しました。

その上で、段階的な実施のた

めに新3年生以上は卒業まで40人学級のまとなる点や中学校が対象とされていない点などを指摘。35人学級の早急な実現や、

40年ぶり

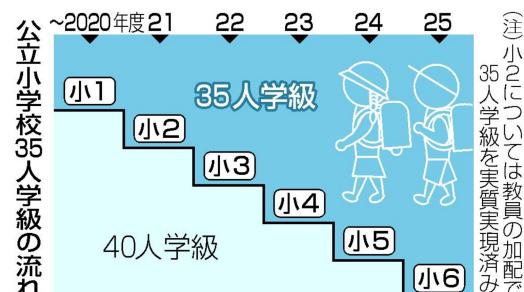
吉良参院議員が賛成討論

小学校全学年の学級人数上限を現行の40人から35人に引き下げる改正義務が可決、成立しました。小学校全体で学級規模を縮小するのは40年ぶり。保護者が勝ち取った大きな前進です。

35人学級法成立

中学校での具体化を求めました。また、少人数学級の実現に欠かせない教員の確保のために、非正規教員を正規化し、国が定数改善計画を策定して、教員確保の見通しを示す必要性を指摘。教員の長時間労働是正や過大規模校の解消、国主導で行われてきた学校統廃合の中止、再検討を求めました。

さらに吉良氏は、少人数学級の効果検証について、参考人質疑でも点数で測る「学力」では見えない効果に注目すべきだとの意見が出たことなどを指摘。「少人数学級が実現するいまで、点数で数値化された『学力』ばかり注目するのではなく、一人ひとりの子どもたちが『自分は大切にされている』と実感できる学校現場への転換を図るよう強く求める」と述べました。



医療破壊2法案ストップ

一番減るのは公費負担

コロナ禍に高齢者370万人 医療費2倍

75歳以上の高齢者の医療費窓口負担を1割から2割に倍増する。菅政権は今国会で「高齢者医療費2倍化法案」の成立を狙っています。

対象となるのは何と370万人。同時に成立を狙っているのが、新型コロナウイルス対策に逆行する「病床削減推進法案」。国民から不安と怒りの声があがっています。

「2倍化法案」の対象は、単身で年収200万円以上、75歳以上の夫婦で320万円以上。すでに3割負担の人と合わせると75歳以上の3人に1人が2割以上の負担になります。政府は盛んに「現役世代の負担軽減のため」と言いますが、現役世代の負担軽減はわずか月30円（年350円）で、高齢者の負担増は万単位

（年）です。75歳以上の後期高齢者医療制度では、給付費（医療費から窓口負担を引いたもの）の約5割を公費、約4割を現役世代の支援金、約1割を後期高齢者の保険料で負担します。窓口負担を増やして一番減るのは公費です。

病床削減 コロナに逆行

コロナの感染拡大の中で、全国の医療機関や医療従事者は命がけで奮闘してきました。最も多くの感染患者を受け入れたのが公立・公的病院です。一昨年、政府は、25年度に向け高度急性期と急性期の20万のベット削減をめざし、400を超える公立・公的病院を名指しして統廃合の大号令をかけました。このうち146病院はコロナ患者を受け入れています。コロナ対策で急性期病床を増やすことが必要なとき、政府がやろうとしていることは全くさまざまです。コロナの前につくった病床削減計画と、それを進める法案は、白紙撤回すべきです。（しんぶん赤旗 日曜版 4月4日号）



切実な抗議の声を聞け！

白川ただし